

Culib News (クリブニュース)

No.59 2009年1月10日 中京大学図書館発行

ことばの散歩—22—

Homo Loquens

図書館長 安村 仁志

人とはいったい何者なのでしょう——それをことばで表すべく、人間の特質を踏まえて Homo sapiens を始めさまざまな表現がつけられてきました。Homo とはラテン語で「人間」を表し、sapiens は同じくラテン語の「賢くある」の意を持つ sapere の現在分詞で、人間が“知恵をもった”存在であることを示そうとするものです。

ほかにどのような言い方があるのでしょうか。同じく人類学的な表現としては、Homo erectus(直立人:猿人とホモサピエンスとの中間段階の化石人類=原人)、Homo habilis (器用な人:猿人から原人への移行形)、Homo faber (工作人:動物と異なり物・物を生産する道具を作る能力をもつことに人間の特質を見る)などがあります。次に、人文科学的な Homo ludens (遊戯人、オランダの歴史学者ホイジンガによる)、Homo patiens (病む人)、Homo ridens (笑う人)、Homo amans (愛の存在)、Homo religious (宗教を信じる存在)、社会科学的な Homo economicus (経済的存在)、Homo socialis (社会的存在)、Homo communicans (交易する存在)、Homo polemicus (抗争する存在)などがあります。

これらに加えて、人間は「言語をもち、使用する者」という意味で、Homo loquens (speaking man, talking man) といった言い方があります。言語によって人間は高度な意思伝達手段を手に入れました。自身の意思を他人に伝え、他人の意思を受け取るコミュニケーションが成立しました。コミュニケーション (communication) という語が、「他人と分かち合う、共有する」の意味を持つラテン語の communicare に由来する通りです。これは、一人ひとり異なる存在の意思疎通がスムーズになり、“共同”という概念につながるというすばらしい側面もっています。と同時に、異なる意思をもつ存在であるが故に意思疎通が難しく、“分裂”、“断絶”にまでつながるといった別の側面もっています。われわれ人間はありがたい手段を手にするとともに、それを上手く使えないことからもどかしさを感じたり、苦勞したりすることにもなりました。“世界の言語が同じだったらいいのに”とは誰もが一度は思ったことがあるかと思いますが、ことばが通じないことのもどかしさもその一端でしょう。alien (性質を異にして、かけ離れて; 調和しないで、相いれなくて などの意) という語が「外国の」の意味を持っていることに端的に表されているように思います。また、言語が同じでもうまく通じ合えないこともしばしば経験するところです。

さて今日、“ことば”、そして“ことばを使うこと”について、深く問うてみなければならぬのではないかと思わされます。“ことば”をめぐる環境が変化・多様化しているとともに、総じて“ことば”の運用能力が低下してきているように思われるからです。各種の新しいコミュニケーション・ツールの開

発により、直接顔と顔を会わせてことばをやり取りすることが以前より確実に減ってきています。手紙という伝達手段もどんどん使われなくなってきました。メールがそれを代替しているかもしれませんが、すべてを代用できるものではないでしょう。それに読書離れも加っては、“ことば離れ”ということになるのでしょうか。その一方で、皮肉にもプレゼンテーション能力が求められています。

presentation (披露、発表、提示) という語は「前に持って来る」の意をもつラテン語 *presentare* に由来するのですから、何らかの意思を人の前に指し示すことにおいて、それが自分のものであれ、他人のものであれ、明解さが求められます。特に自分の考えであれば、内容の豊かさが求められます。つまり、内容・方法において、豊かになされなければならないということです。

そういった意味で、私たちはことばを磨かなければなりません。その場合の“ことば”にあたる語としてはロゴスがふさわしいように思われます。聖書の有名なフレーズ「初めにことばがあった。ことばは神とともにあり、ことばは神であった (*Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ Λόγος, καὶ ὁ Λόγος ἦν πρὸς τὸν Θεόν, καὶ Θεὸς ἦν ὁ Λόγος*)」(ヨハネ伝1章1節)にある“ことば”を表す語がロゴス (λόγος) です。ここでの“ことば”は「神のことば」としてイエス・キリストを指し、そのうちに神の思いが表されているとされます。一方、このロゴスという語は、古典ギリシア語では「言葉」「論理」「真理」といった意味をもったものでした。ロゴスは、“物語”や“話”などのいわば「空想」に類するものを指すミュトスに対する概念で、「理性」的、「論理」的言葉です。ここに、ことばは単に思いついたことを伝えるだけでなく、論証につながるものであることが示されています。したがって、私たちはことばを通してものごとを言い表す際、真実と思うことを、筋道を立てて分かりやすく示し、総体として真摯且つ魅力的に行いたいものです。今日、ことばが虚ろになってきているからです。発することばが責任を伴ったものではなく、その場限りの、見せ掛けのことが多くなってきているように感じられます。「真実味」がなく、その結果「嘘」「偽」を感じさせられることが多く、「信頼」が多くの場面で失われています。プレゼンテーションが単に自己本位の一方的アピールになってはなりません。

学部・学年が異なる学生たちが集まった秋学期の《基礎ゼミ》は“豊かなことばを目指す”をテーマにしましたが、発表はなかなか興味深いものでした。一部を紹介してみます。音楽を一つの“ことば”と見立てた発表は、歌詞に込められたメッセージ・意味を深く読み取ろうとするものでしたが、そこには詩やメロディーを作りだす者の、さまざまな人生上の経験・思い、社会背景、願いなどが当然のことながら凝縮されており、聞く者に響く時そこに共感が生まれるということ、具体的に示そうとしていました。ことばは生きていると感ずることが出来ました。また、メールなどで用いられる「顔文字」と生活のなかでよく目にする絵文字としての「ピクトグラム」(非常口のマークなど)についての発表もありました。見えない相手に文字では無理な感情を伝えるため考案された顔文字 [(^_^)、(´・ω・´) ショボンなど] については、その発想の豊かさを感じました。また、ピクトグラムに関しては、外国人が多数来日した東京オリンピック、大阪万博を機に普及していったことの中に、言語では通じないものをインターナショナルに、且つ瞬時に通じさせることの機能性の意味づけをしたものでした。コミュニケーションの手段・環境の多様化に伴い、新しい“ことば”が生み出されていることを知らされました。その上でなお大事にしたいのは、“ことば”は真実に、豊かに使いたいということであり、結局 *Homo loquens* たる私たちの間でより良い“関係”が築かれることです。では (∩▽∩)ノ“。(マタネー!!)

児童文学の旅(10)

—R. マックロスキー、アメリカ：ボストン街—

原 昌

ボストンはアメリカ独立戦争の舞台となった古い街だが、私にとっても思い出深いところである。この街を三度、訪れている。

1981年春、ニューヨークから列車に乗って行ったのが、最初であった。ボストンまで3時間ばかり、車中で退屈まぎれに、向い席の二人の少女に「ハンプティ・ダンプティを知っている？」と問いかけると、「知っているよ」といって、二人で口ずさんでくれた。これはイギリス伝承童謡「マザー・グース」の〈なぞなぞ唄〉だが、アメリカでも流布していると感じたものであった。

二度目は、1992年の夏、当時、文学部英文科の境賛三先生のおともをして、マサチューセッツ大学ボストン校へ、短期留学をする学生たちとともに、この街を訪れた。2月には、ボストン校との協定調印のため訪れた松田岩男学長が、宿泊先のウェスティン・ホテルで射殺されたという不幸があった。その数ヶ月後のことで、私はボストンコモン近くの教会に立ち寄って、祈りを捧げた思い出がある。

三度目は、1994年の夏の終わり、大学院の教え子と、L.M. オルコットの生誕地コンコードを訪ねる途上で、ボストンで下車したことがある。このコンコード訪問については、いつか記そう。

訪れるたびに出かけたのが、ボストンコモンであった。自然ゆたかな美しい公園で、林の小径を辿って



ボストンコモン
カモの塑像

いくと、道ばたにちいさな塑像がいくつも並んでいる。母ガモに連れ添って、8羽の子ガモたちが、一列になって歩いている姿が見られた。アメリカの子どもなら誰でも知っているロバート・マックロスキーの絵本「かもさんおとおり」の主人公たちであった。物語は、近くを流れるチャールズ川の州で、子どもを孵した親ガモが、安全な地を求めて、引っ越した実話に基づいている。カモたちはボストンの中心街を通り、公園の池にある〈中の島〉にたどり着き、そこに住んだという。

ただマックロスキーは絵本のなかで、太っちょのポリスさんが混雑する交差点に立ち、自動車を遮断、そこをカモたちが堂々と横切っていく姿を、大胆な筆づかいで描いている。ユーモラスだが、作者の機械文明への批判も感じられる。

事実、中の島にはカモたちが住んだという記念の表示板があって、島の周りを遊覧船がまわり、多くの親子が短い船旅をたのしんでいた。それは、私にとって思いがけない光景であった。



ボストンコモンの池
中央 カモの住んだ〈中の島〉

(中京大学名誉教授)



新着図書のご案内



2008年10月～12月の受入図書の中から一部を紹介します

書名	著者	出版社	出版日付	資料ID	所在	請求記号
アメリカ人弁護士が見た裁判員制度 (平凡社新書：443)	コリン P.A. ジョーンズ著	平凡社	2008.11	1108676	LSC 開架 文庫新書 書架	080/H 51/ 443
凜とした人、卑しい人： なぜ大人たちは恥知らずになったか (講談社+α新書：326-2A)	山崎武也 [著]	講談社	2008.11	1108669	LSC 開架 文庫新書 書架	080/Ko 19/ 326-2A
モンスターワイフ： 幸せなふりはもうしない (講談社+α新書：426-1A)	二松まゆみ [著]	講談社	2008.11	1108672	LSC 開架 文庫新書 書架	080/Ko 19/ 426-1A
自分を不幸にしない13の習慣	小川忠洋著	アスコム	2008.10	1109584	LSC 開架 書庫	159/O 24
宗教事件の内側： 精神を呪縛される人びと	藤田庄市著	岩波書店	2008.10	1108753	LSC 開架 書庫	169.1/F 67
景気ってなんだろう (ちくまプリマー新書：094)	岩田規久男著	筑摩書房	2008.10	1108250	LSC 開架 書庫	337.9/I 97
聞く作法： 話を聞ける人が成功する理由	渡邊美和子著	幻冬舎メデイ アコンサルティ ング	2008.10	1109238	LSC 開架 書庫	361.454/ W 46
食べかた上手だった日本人： よみがえる昭和モダン時代の知恵	魚柄仁之助著	岩波書店	2008.10	1108761	LSC 開架 書庫	383.81/U 79
現代観光のダイナミズム	米浪信男著	同文館出版	2008.10	1107969	LSC 開架 書庫	689/Ko 63
きっかけの音楽	高橋悠治著	みすず書房	2008.10	1107962	LSC 開架 書庫	760.4/Ta 33
日本の書物への感謝	四方田犬彦著	岩波書店	2008.10	1108762	LSC 開架 書庫	910.4/Y 81
美女いくさ	諸田玲子著	中央公論新 社	2008.9	1107508	LSC 開架 書庫	913.6/Mo 77
ありったけの話	中山智幸著	光文社	2008.9	1107498	LSC 開架 書庫	913.6/N 45
小銭をかぞえる	西村賢太著	文芸春秋	2008.9	1107511	LSC 開架 書庫	913.6/N 84
治験	仙川環著	双葉社	2008.7	1107373	LSC 開架 書庫	913.6/Se 67
空へ向かう花	小路幸也著	講談社	2008.9	1107507	LSC 開架 書庫	913.6/Sh 96
恋のかけら	唯川恵、山崎ナオ コーラ、朝倉かす み [ほか] 著	幻冬舎	2008.8	1106727	LSC 開架 書庫	913.68/Ko 28
検索バカ (朝日新書：140)	藤原智美著	朝日新聞出 版	2008.10	1108842	LSC 開架 書庫	914.6/F 68
社長の器：企業価値向上論講義	佐山展生編：安部 修仁 [ほか述]	日本経済新 聞出版社	2008.11	1109181	LSC 開架 書庫	準備中
魔法のように人に好かれるディズ ニー的思考法	西村秀幸著	ぶんか社	2008.11	1108871	LSC 開架 書庫	準備中
青春の終わった日：ひとつの自伝	清水眞砂子著	洋泉社	2008.9	1108885	LSC 開架 書庫	準備中

書名	著者	出版社	出版日付	資料 ID	所在	請求記号
書店はタイムマシン： 桜庭一樹読書日記	桜庭一樹著	東京創元社	2008.9	0937113	豊田開架室	019.9/Sa 46
ひらめきの導火線：トヨタとノーベル賞（PHP 新書：544）	茂木健一郎著	PHP 研究所	2008.9	0936109	豊田開架室	141.5/Mo 16
折れない心の作り方	斎藤孝著	文芸春秋	2008.8	0937073	豊田開架室	159/Sa 25
ニッポン： ヨーロッパ人の眼で見た 新版	ブルーノ・タウト著／篠田英雄訳	春秋社	2008.9	0937063	豊田開架室	291.09/Ta 96
歴史の交差点に立つて	孫歌著	日本経済評論社	2008.7	0936064	豊田開架室	302.2/So 41
よくわかる裁判員制度と刑事訴訟のしくみ：平成21年スタート！	藤田裕監修	三修社	2008.10	0937122	豊田開架室	327.67/Y 67
なぜ、アメリカ経済は崩壊に向かうのか：信用バブルという怪物	チャールズ・R.モリス著／山岡洋一訳	日本経済新聞出版社	2008.7	0937086	豊田開架室	332.53/Mo 78
検証格差拡大社会	上村敏之、田中宏樹編	日本経済新聞出版社	2008.9	0937057	豊田開架室	361.8/U 42
ネットいじめ：ウェブ社会と終わりになき「キャラ戦争」（PHP 新書：537）	荻上チキ著	PHP 研究所	2008.7	0935820	豊田開架室	371.42/O 25
栄養医学ガイドブック： サプリがもたらす健康の回復	柏崎良子著	学習研究社	2008.6	0937126	豊田開架室	498.583/Ka 77
歴史を変えた100匹の犬	サム・ストール著：河野肇訳	創土社	2008.10	0937052	豊田開架室	645.6/St 1
みんな、おもちゃが好きだった： ビートルズもローリングストーンズも	北原照久著	扶桑社	2008.9	0937068	豊田開架室	759/Ki 64
オリンピック面白雑学：古代から現代までの逸話満載	満園文博著	心交社	2008.8	0935813	豊田開架室	780.69/Mi 66
あんまりな名前	藤井青銅著	扶桑社	2008.7	0937059	豊田開架室	812/F 57
ある意味、ホームレスみたいなものですが、なにか？	藤井建司著	小学館	2008.9	0937064	豊田開架室	913.6/F 57
遊行の門	五木寛之	徳間書店	2008	0937500	豊田開架室	準備中
地球温暖化対策が日本を滅ぼす	丸山茂徳	PHP 研究所	2008	0937418	豊田開架室	準備中
焼き鳥はなぜ串に刺さっているのか？：儲けるために知っておきたい生産管理の基礎知識	初鹿野浩明	PHP 研究所	2008	0937419	豊田開架室	準備中
日本はどれほどいい国か：何度でも言う、「世界はみんな腹黒い」	日下公人、高山正之	PHP 研究所	2008	0937420	豊田開架室	準備中
食糧がなくなる！本当に危ない環境問題：地球温暖化よりもっと深刻な現実	武田邦彦	朝日新聞出版	2008	0937357	豊田開架室	準備中
ブログ論壇の誕生	佐々木俊尚	文芸春秋	2008	0937075	豊田開架室	準備中



購入希望図書は
閲覧カウンター、
または OPAC から
お申し込み下さい。



今と昔の『源氏物語』の楽しみ方

文学研究科 博士後期課程2年 鈴木 友子

中京大学図書館には多くの貴重書がある。貴重書とは、文字通り「古くて貴重」な本のことを指す。虫喰い（紙魚、シミと読む虫に喰われる）や汚れの少ないものが多い。また、貴重書の中には海外の本もあるが、特に日本の本が多い。いくつかは電子図書館で公開しているが、図書館で展示公開されたものもある。今年度は『源氏物語』関連のものが公開された。

なぜならば、2008年は『源氏物語』が読まれるようになって千年目の「源氏物語千年紀」とされ、各地でそれにちなんだイベントが開催されたからである。中京大学でも、『源氏物語』の講演会が行なわれた。図書館にも『源氏物語』関係の貴重書がいくつもある。南北朝時代に書かれた手書きの本（写本という）を始め、綺麗な色がついた奈良絵本、源氏物語を詳しく解説した注釈書などもある。ちなみに、中京大学図書館で最高額の貴重書は、南北朝時代に制作された写本『源氏物語』だ。昔の人は『源氏物語』をどんな風に読んでいたのだろうか。

貴重書『源氏物語』の中には、作られたときから大切に保管されていたものがある。美しい装丁がされていたり、木箱を作って中に本を入れていたりした。大切にされていた本の中には「嫁入り本」と呼

ばれるものもあり、結婚の際に嫁入り道具として持参したりもしていた。実際にその本を読むために持って行くのではなく、本があまりに美しいため、持っていること自体がステータスとなっていたのである。特に、『源氏物語』は古典文学の中では最も有名な作品であり、他の多くの作品にも影響を与えている。『源氏物語』を知っている事は、教養ある人なら常識であった。現代の私たちも、難しい本を読まずに見せびらかすなどして、知ったかぶりをしていることがあるのではないか。

けれども、『源氏物語』のように長大な物語は、読むだけでも大変である。だから昔の人も、実際にはわかりやすい『源氏物語』の解説版などを読んでいた事が多い。特に、時代が下れば下るほど、その傾向が強い。他にも物語の内容にちなんだ絵（物語絵という）を見て楽しんだり、お香（源氏香という）など、別の形でも『源氏物語』を楽しんでいた。

現在の私たちは『源氏物語』といえば、高校時代に勉強したという人が多いと思う。しかし、ほんの数ページ



画像は『中京大学図書館蔵国書善本解題』より

読んだだけ、それも勉強としてでは、あまりいい思い出はないかもしれない。今は多くの『源氏物語』漫画も出版されており、インターネットを開けば『源氏物語』占いや、物語にまつわる名所紹介などもある。2008年は特にイベントも多く、2009年もしばらくは関連イベントが行なわれるようである。『源氏物語』をイメージした源氏スイーツや織物なども作られたようだ。『源氏物語』に限った事ではないが、現在でも古典を楽しむ事ができるこうした試みはとても面白く、それこそ「身近な教養」になるのではないか。

貴重書『源氏物語』はもちろん素晴らしい本だ。しかし、いろいろな形で『源氏物語』を楽しむ事も、昔の人とも共通した、わかりやすく身近な、『源氏物語』の読み方だと思う。

企画展「ドラゴンズプロジェクト」について

中京大学豊田図書館

中京大学豊田図書館において10月27日（月）～11月7日（金）までの期間、企画展「ドラゴンズプロジェクト」が開催されました。

現代社会学部のドラゴンズプロジェクト・グループと豊田図書館の共催で、現代社会学部のゼミの調査・研究の成果や中日ドラゴンズの監督・選手のユニフォームやサイン入り色紙、元中日ドラゴンズの投手として活躍した中山俊丈硬式野球部コーチのノーヒットノーラン達成記念トロフィーや当時の写真等の資料、さらに豊田図書館所蔵の野球関係図書等が展示されました。



この展示には、中日新聞や東海ラジオの取材があり、後日報道されました。参観者は668名を数え、大学祭期間中も開催したことで、多くの卒業生や父母の皆さん、さらに、伊保町の正・副区長をはじめ、小学生も含め、多数の地元住民の皆さんの参観がありました。また、232名の参観者からアンケートの回答があり、現代社会学部ゼミの学生諸君の研究発表に感心した、すごい、良かった、等の声が寄せられ、好評を博しました。図書館としても、学部との連携強化、学生にとって身近な図書館作り、地域との結びつきの強化等の面で前進があったと考えています。

図書館カレンダー (ライブラリーサービスセンター)

1

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

通常開館時間

	平日	土曜日
ライブラリーサービスセンター	9:00～22:00	9:00～22:00
名古屋図書館 (NL)	9:00～19:00	9:00～12:30
法学文献センター (LLC)	9:00～19:00	9:00～12:30
豊田図書館 (TL)	9:00～20:00	9:00～17:00

※ NL、LLC および TL の開館日は HP でご確認ください。

※都合により変更する場合があります。

※入試の関係で、豊田図書館の開館が異なります。ご確認ください。

無印は通常開館

■ は休館日

○ は開館 (10:00～17:00)

○ の開館時間 (平日 9:00～17:00 土曜日 9:00～12:30)



発行 中京大学図書館

〒466-8666

名古屋市昭和区八事本町101-2

TEL (052)-835-7157

<http://www.chukyo-u.ac.jp/tosho/>

印刷 株式会社 荒川印刷